

令和5年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立御調高等学校	校長	倉田 雄司	生徒指導主事	石田 達生
取組事例名	『中高合同体育大会』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
連携型中高一貫教育の学校として、中高合同の体育大会を企画し、つながりを尊重する態度（思いやり、感謝）進んで参加する態度（社会参画、公共の精神）未来像を予測して計画を立てる力（向上心、個性の伸長）を育むことをねらいとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・人や社会に思いやりを持って接する優しい生徒 ・夢の実現に向けて粘り強く取り組む活力ある生徒 ・未来の創造に知恵を活用できる賢い生徒



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
7/20 第18回中高合同体育大会第1回実行委員会 8/ 4 案内状発送 8/27 体育委員会 8/29 「みあがりおどり保存会」との連携 以降、数回にわたり「みあがりおどり」の指導受講 （全校の男子生徒が体育の授業、予行練習にて）	生徒にめあてをもたせるために 準備や練習の計画を体育委員会等で早めに伝達し、取り組むべきことを周知して、一人一人の役割に責任を持たせる。
8/31 中高合同体育大会 係会 プログラム・演技帳作成	生徒の意欲を高めるために 赤組・白組の対抗戦とし、高校・中学とともに縦割りにて編成を行う。 保護者・地域住民への公開とし、多くの方に観戦いただき、姉妹校からの留学生も参加し、台湾からの訪問団にも観戦していただく。
9/ 4 高等学校予行4～6限 9/ 6 会場準備・中高合同予行（準備が終わり次第予行） 9/ 9 第18回中高合同体育大会	生徒の頑張りを認め、価値付けるために 講評等の中で生徒の頑張りをたたえるとともに、来賓や地域の人々からの評価の声を伝える。



3 成果と課題

4年ぶりの中高合同体育大会であった。コロナ禍により大会当日、高校1年生が学年閉鎖となり参加できなかったが、それまでの準備や練習等で、横のつながりを深め、自己の役割を果たす事で中高生が絆を深めることができた。また、「みあがりおどりの」練習を通して、地域の伝統芸能に触れ、地域の方と連携を持つことができ、地域の方の思いを感じることができた。94%の生徒が、つながりを尊重する態度・進んで参加する態度を育むことができたとして自己評価している。リーダーとなり、主体的に活動していく生徒を更に数多く育成していくことが課題である。
